

現代最大の戦争犯罪人

南ベトナムにおけるアメリカの戦争犯罪に

関する黒書（第1巻）

1966



南ベトナムで侵略をつづけ、さらに戦争を北ベトナムへ「拡大」しているアメリカが、南ベトナムのかいらい政府とかいらい軍を手先きに使って、いかに残忍非道な殺害や弾圧を行なっているかについては、これまでも断片的に報道されている。しかも、アメリカは兵力を増強し、いわゆる衛星国の軍隊を投入して、何とか戦局の指導権をにぎろうとして焦れば焦るほど、戦争のためには手段をえらばないという態度にでてきている。そこには戦闘員と非戦闘員の区別がないどころか、老人や婦人や子供たちをふくめて民族みな殺し（ジェノサイド）戦争の残虐性がむきだしにされている。

これらは第一に平和にたいする侵略の犯罪であり、ジュネーブ協定をはじめ、いっさいの国際協定を踏みにじったまったく不法の行為であり、基本的な人権と、人類の良心にそむく悪鬼の所業である。ここに紹介する「黒書」や「告発状」は、南ベトナムでアメリカの侵略者とその手先きたちが行なっている、文字通り「現代最大の戦争犯罪」と「北ベトナムにおけるアメリカの戦争犯罪」を具体的な事実に即して刻明にあばいたものである。このなかでも、ナバーム弾、黄りん弾、毒ガス、化学的毒物などの使用のほか、南ベトナムが新し

い殺人的な兇器の実験場として、利用されていることが指摘されている。

「黒書」にはあげられていないが、そういう新型殺人兵器として、バイナップル弾、グワーバ弾、そして、ベトナムの人たちがクワ・オウイとよんでいる親子爆弾がある。これはベトナムの果物オウイによく似たかたちをしている爆弾である。バイナップル弾は重さ八〇〇グラム、弾壁の厚さ七ミリ。グワーバ弾は重さ八〇〇グラム、オレンジほどの大きさで、それぞれ一つのコンテナーに三六〇個ほど詰められ、炸裂すると五〇〇片位の鋭い鉄片が猛烈な勢いで飛び散り、前者は半徑五〇メートルに有効、後者は六、〇〇〇平方メートルに有効といわれる。

今年四月から北ベトナムで使用されはじめたというクワ・オウイの実物をみると、重さ四二〇グラム、直径六・四センチ、外皮の厚さ六ミリ、なかに無数のさん弾がつめてある。これは地上におちると四、五センチ位の高さにはね上って、そこで炸裂する。そして、中のさん弾や、亜鉛、アルミ・鉄の合金でできている弾壁の破片が鋭い切先きとなって直径二五メートルにわたって水平に飛び、人体に突きささり

人体に入った破片は、なかなかとりだせない、という殺人兵器である。

さらにアメリカ帝国主義者は去る六月二九日、ついにハイ・ハイフォンの爆撃を行ない、北ベトナムにたいする破壊的空襲をさらに新しい段階へ「エスカレート」させた。これによってアメリカ帝国主義者の犯罪はさらに大きなものとなった。われわれはこの新しい状況を本文に加えて考えれば南北ベトナムにわたって、アメリカ帝国主義者が行なっている許すべからざる残忍な所業がすべてあきらかである。しかも、アメリカとその手先きたちは、ベトナム人民を屈服させることができないし、戦局の主導権をにぎることができない。ベトナム人民は解放と独立、社会主義擁護、祖国統一の旗を固く守り、一致団結してたたかっているからである。民族皆殺し作戦も、ベトナム人民の人民戦争の正しい目標のまえには、どんな手段をとってもついに勝てないのである。

ベトナム人民は、前線での英雄的なたたかいで、アメリカ帝国主義に抵抗し、これをうち負かしているだけでなく、南では解放区の建設、北では「戦闘しながら生産する」体制にみられるように、戦闘と経済や思想文化の建設とを結合して、強靱なたたかいをすすめているのである。「黒書」に描かれた魔手をはねのけて、正しい祖国愛にみちびかれた建設が、戦争の一面でつづけられていることもたえず想起する必要がある。

ある。

それといま一つ、この「黒書」に描かれている黒い手は、われわれのうえにものびてきている事実を忘れてはならない。アメリカがベトナム戦争で焦れば焦るほどアメリカが日本の反動勢力を利用する度合は、いよいよ強まってくる。すでに日本の反動勢力は、基地の使用や、各種の特需や日韓条約やその他軍事、政治、経済協力その他さまざまのかたちで、アメリカと手を組んでいる。

日本の反動勢力は、ベトナム人民にたいして、あきらかに加害者の列に加わっているのである。

われわれ自身も「日本におけるアメリカ帝国主義者の手口」とその協力者たちの所業」について「黒書」を書くことができるし、書かねばならない。ベトナム人民への支援、連帯の運動はそういう事実を摘発し、糾弾し、これとたたかいながらすすめられていくのである。

日本の現実と照らしながら「黒書」をこの角度からみていくとき、そこに描かれた血の滴る事実の一つ一つは、無言のうち、われわれに力強くよびかけ、ともにアメリカ帝国主義とその手先きたちに反対してたたかう日本人民とベトナム人民の共同の行動の方向を、力強く示してくれるであろう。

は
し
が
き

ベトナムに関するジュネーブ協定調印十二周年記念に当って（一九六六年七月二〇日）、南ベトナム解放民族戦線の「南ベトナムにおけるアメリカ帝国主義者とその手先きの戦争犯罪を告発する委員会」は、「現代最大の戦争犯罪」と題する黒書の第一巻を刊行した。黒書はつぎの三つの部分からできている。

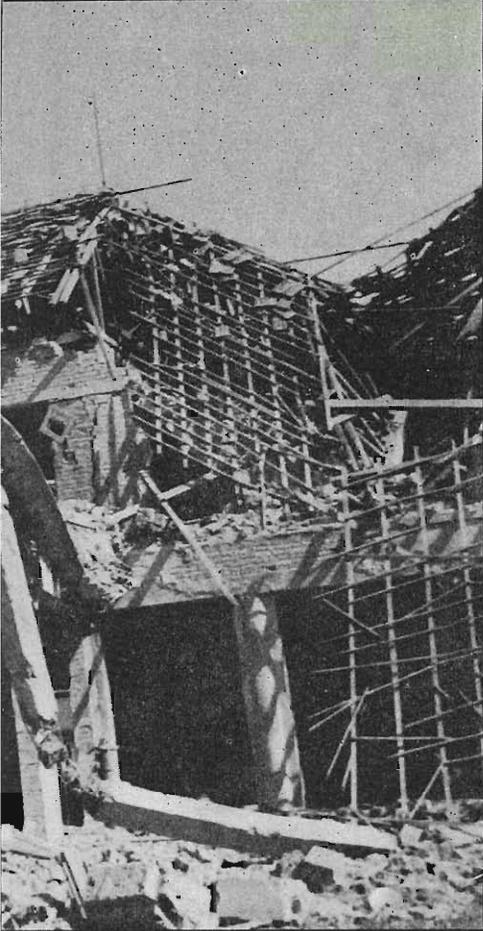
- (1) 南ベトナムにおけるアメリカ帝国主義者の侵略犯罪
- (2) 南ベトナムにおけるアメリカ帝国主義者の戦争犯罪
- (3) 戦争犯罪者は厳正に処罰されねばならない。

以下は七月一六日、南ベトナム解放通信社が発表した一万語に及ぶテキストの全文を訳したものである（ベトナム通信ⅡVNA一九六六年八月一日付の英文テキストによる）。

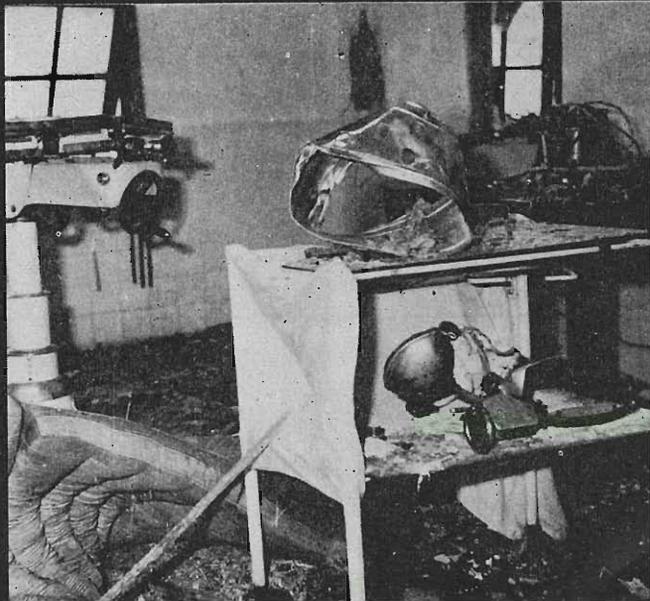
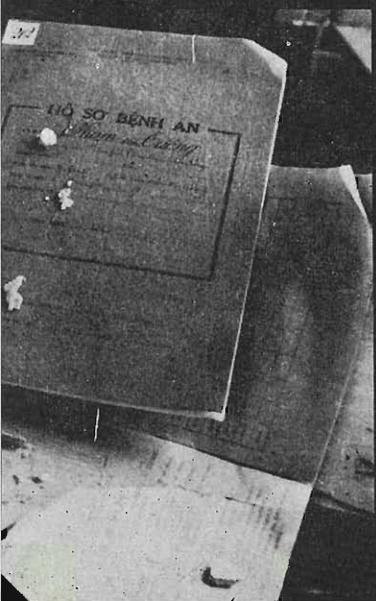
侵略と抵抗・建設と破壊・正義と不正義
人間と悪魔——それはベトナムの20年でもあった

サイゴンで開かれたカイライ政権糾弾の集会





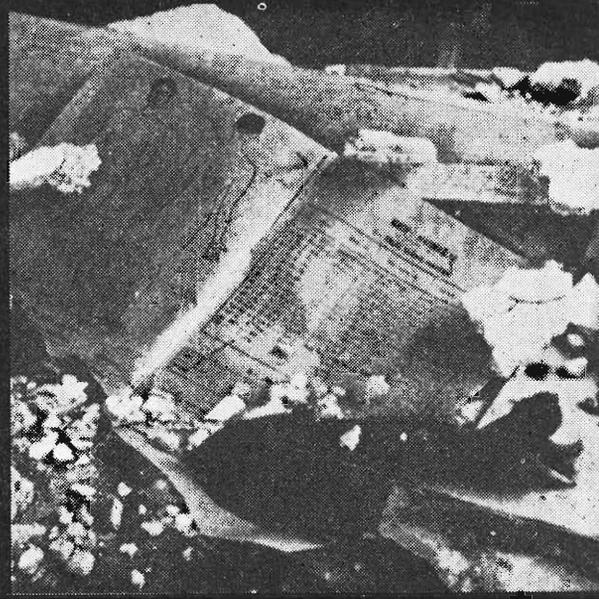
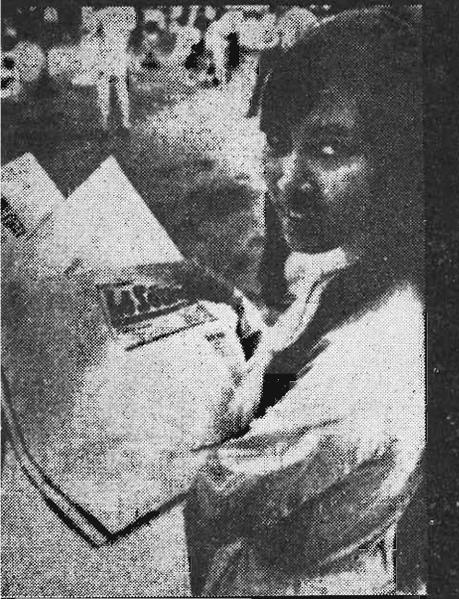
ナムテイン紡績工場の保育園の爆撃
空爆された病院手術室 (65. 6. 23)





検閲で白紙のまま出されたサイゴン新聞

爆撃された北ベトナムのライ病院で焼け残った書類



第一部——南ベトナムにおけるアメリカ帝国主義者の侵略犯罪

一貫してアジアを狙いつづけた黒い手

過去二〇年にわたって、アメリカ帝国主義者はベトナムにたいして、たえず、系統的に干渉と侵略の政策をとってきた。一九四九年末、中国本土から追いだされたのち、アメリカ帝国主義者はインドシナにたいする積極的な干渉に乗りだした。このときまでに、ベトナム人民は一九四五年の八月革命を勝利のうちに遂行し、日本ファシストとフランス植民地主義者の支配をくつがえし、民族の独立と主権をとりもどしていた。

しかし、まもなく、フランス植民地主義者はふたたびベトナム人民を奴隷（どれい）にしようとして侵略軍を送り込んできた。一九五〇年、ニューヨーク・タイムズ紙はその社説で、ベトナムにたいするアメリカの野心をつぎのように書いた。「インドシナは大きなカケをやる価値がある。第二次大戦前においてさえ、インドシナに年間三億ドルとみられる配当金を生みだしていた」。

一九五三年、アイゼンハワー米大統領はこういった。「インドシナを手離すというのではないが、もしいま、インドシナをわれわれが失うと仮定しよう。そうなると、貴重な錫(すず)やタングステンなどは手にはいらなくなる。われわれは恐るべき事態、つまり、インドシナ領域ならびに東南アジアの資源から欲するものを手に入れる能力を失ってしまうのである。そういう事態の発生をふせぐためのもっとも安上がりな方法をわれわれは求めている」。

このためのアメリカの「予防措置」は、まずフランス植民地主義者にベトナム人民攻撃のための資金と兵器を供給し、つぎにフランスを追い出し、アメリカ自身がフランスにとってかわってベトナムを支配する、ということである。

しかし、フランス植民地主義者はベトナム人民にうち負かされ、こうして一九五四年に調印されたジュネーブ協定は、ベトナム人民の基本的な民族の諸権利を厳粛に承認した。そこでアメリカの政策も新しい段階に切りかえられた。つまり、いっそう直接かつ積極的な干渉と侵略の政策がとられることになった。南ベトナムでフランス植民地主義者にとってかわったアメリカ帝国主義者は、わがベトナムのこの地域を、東南アジアにおけるアメリカの戦略計画に奉仕する植民地、軍事基地に変えようとする新植民地主義政策をとった。

南ベトナム人民の断固たる、効果的な抵抗にぶつかって、アメリカのこの干渉と侵略の政策は、多くの発展段階をへたのち、ついに、文字通り公然たる侵略戦争になった。

一九五四年から六〇年にいたる間、アメリカはゴ・ジン・ジエムかいらい政権を通じて、一九五四

のジュネーブ協定を系統的にふみにじり、協定に規定された自由な総選挙（注Ⅱ一九五六年七月施行の予定）の実施を妨害して、ベトナムの再統一に反対した。同時に、アメリカ帝国主義とその手先は、南ベトナム人民の愛国運動に血みどろの弾圧を加えた。

愛国運動を、ごまかしや武力弾圧でもはやおさえることができなくなった六一一年なかば、アメリカは、南ベトナム人民に、闘争をあきらめさせ、アメリカの支配に屈服させるため「特殊戦争」——カムフラージュした侵略戦争を開始した。幾千の米軍将兵、たくさんのヘリコプター部隊が南ベトナムに送られた。これらの米軍兵士は、当時戦争遂行の主体とされていた、かいらい軍とともに、実際に直接戦闘に参加していた。そして、戦争を直接指揮するため、サイゴンに米軍司令部が設置されるにいたった。軍事援助司令部（M・A・C・V）という名の軍司令部が一九六二年二月八日に設置され、その初代司令官はポール・D・ハーキンス大将であった。

完敗した特殊戦争と狂気の戦火拡大

しかし、一九六四年半ばごろまでに、アメリカの「特殊戦争」の戦略は、南ベトナム解放民族戦線の指導のもとにたたかう南ベトナム人民によってあらゆる面で失敗し、基本的に破産した。

そのためジョンソン政権は一九六五年はじめ、数万の米軍の南ベトナム投入を開始し、直接、公然たる侵略戦争にのりだし、ベトナムにたいする干渉と侵略の政策を新しい段階にすすめた。

一九六六年六月二六日までにベトナム侵略戦争に参加する米軍兵力は、米第七艦隊およびグアム、タイの米空軍合計を別にしても二七万三千にたっし、南ベトナムの多くの重要戦略基地を占領し、多くの軍事行動をおこない、事実上、この侵略戦争の中核となった。アメリカ支配層はいま、ことし（一九六六年）の末までに米軍を四十万にふやそうと計画している。他方ジョンソン政権は、一連のアメリカの衛星国に南ベトナム派兵をさせようと懸命に圧力をかけている。

一九六五年二月いらい、アメリカは、空からの破壊戦争のかたちで北ベトナムにたいする侵略戦争を一步一步拡大している。米第七艦隊、南ベトナム、タイの基地から発進する米軍機は、ベトナム民主共和国の領土にくりかえし無差別攻撃、銃撃を加え、北ベトナム人民にたいして悪虐な犯罪行為を犯している。

海賊のような米軍機はラオスでも、ラオス愛国勢力の支配する多くの地域、とくに中部、低部ラオスの多くの地点に不法な爆撃、掃射を加えている。

アメリカの侵略戦争のほのおは、隣りのカンボジア王国にももえひろがっている。アメリカ侵略者は、南ベトナムとタイの手先を送りこんで、カンボジア領土にたいし挑発、侵犯、破壊活動をくりかえす一方、公然と国境越しにカンボジア領土を砲撃し、あるいは、国境を越えて侵入することさえその軍隊に命令している。さらに、アメリカ支配層の戦争気犯たちは、侵略戦争を中国にまで拡大するとさえわめきちらしている。

アメリカ帝国主義者は、南ベトナムで侵略戦争をすすめることによって、ベトナムの主権と独立、

南ベトナム人民の自決権をふみにじり、インドシナと東南アジアの平和を乱暴に破壊している。これは、全世界の民族解放運動と人民にたいする公然たるあつかましい挑戦である。

すべてのジュネーブ協定をじゅうりん

アメリカ政府は、ベトナムにかんする一九五四年ジュネーブ協定の基本的な諸条項、とりわけ、「カンボジア、ラオス、ベトナムとの関係において、会議の各参加国はこれら三国の主権、独立、統一および領土保全を尊重し、その国内問題に干渉しないことを約する」という一九五四年ジュネーブ会議最終宣言第十二項にたいする重大な違反をしている。

同時に、アメリカ政府は、ベトナムへの外国の軍隊、軍事要員ならびに兵器の導入、双方の再集結地帯における外国軍事基地の建設および双方がそれぞれいかなる軍事同盟にも加盟することを禁じている、協定の重要な軍事条項をひどくふみにじっている。

ベトナムにおける敵対行動停止にかんするジュネーブ協定第十六条は、「本協定発効とともに、増強部隊、追加軍事要員をベトナムに入れることはすべて禁止される」と規定している。

第十七条は、「本協定発効とともに、あらゆる形の兵器、弾薬その他の軍需物資、たとえば軍用飛行機、艦船、大砲、ジェット・エンジン、ジェット兵器、装甲車両などを増援のためベトナムに入れることは禁止される」と定めている。

第十八条は、「本協定の発効とともにベトナム全領域を通じてあらたな軍事基地の設置は禁止される」とのべている。

第十九条は、「本協定の発効とともに、双方の集結区域内に外国のいかなる軍事基地も設置してはならない。双方は各自に割りあてられた区域をいかなる軍事同盟にも参加させず、また同地域を敵対行動の再発あるいは侵略政策のために利用させないことを保証しなければならない」と規定している。

アメリカ政府は、「これら諸協定を防げるため武力による威圧または武力行使をしない」（ジュネーブ会議最終会議でウォルター・B・スミス米代表がおこなった宣言）というみずからの厳粛な約束をふみにじった。

アメリカ政府はまた、アメリカも加盟国の一つである国連憲章の「すべての加盟国は国際関係において、いかなる国の領土保全または政治的独立にたいする武力による威圧あるいは武力行使、その他国連の目的に合致しない方法をとってはならない」という規定に重大な違反をしている。

「アメリカのベトナム政策についての法律家委員会」（アメリカ）は、アメリカ政府がベトナムで行なっている戦争を法的に分析して、「ベトナムにおけるアメリカの行動は、われわれ（アメリカ）がそれに参加して順守の義務を負っている国連憲章の主要条項ならびにわれわれ（アメリカ）が尊重を約束しているジュネーブ協定に違反している」という結論をだした（一九六六年一月二五日、同委員会のロバート・W・ケネディ名誉議長、ウイリアム・I・スタンダー議長の米大統領領受書簡）。またE・グリューニング米上院議員も、かれ自身「アメリカはベトナムにたいする侵略者である」という結論をださざる

をえない」ことをみとめている（六六年五月七日、A P通信）。

アメリカが犯した世紀の犯罪——「侵略の罪」

以上であきらかなとおり、南ベトナムでアメリカが犯した第一の罪は、ヨーロッパ枢軸諸国戦争犯罪人の告訴と処罰にかんする一九四五年八月八日のロンドン協定の用語にしたがえば、「侵略の罪」であり、平和にたいする犯罪である。すなわち侵略戦争、あるいは、国際条約、協定、共同防衛にかんする取り決めに破っておこなわれた戦争を指導、準備、開始したこと、または、上述の行為のひとつを遂行する計画に加担したのである（国際法廷記録への補遺第六条第六項）。したがってこの犯罪は、事実においても、また法的にも確定されている。

これらの事実は、南ベトナムにおけるアメリカの侵略行為を弁解しようとするジョンソン政権のあらゆる主張を完全に粉碎するものである。

アメリカのあらゆる議論は、南ベトナムがベトナムから切りはなされた別個の国家であるという仮定を前提にしている。しかし、ベトナムは数世紀来つねにひとつであったし、ベトナム民族はつねにひとつの民族であった。

一九五四年のジュネーブ協定も、ベトナム領土の一体性もみとめている。ベトナムの二つの区域への分離はただ一時的な措置であり、一九五六年七月におこなわれるはずであった自由な総選挙とともに

に消え去るべきものであった。そして一七度線ぞいの軍事境界線は「けっして継続的な政治的あるいは領土的境界と解されるべきではない」（インドシナにかんする一九五四年ジュネーブ会議最終宣言第六項）のである。

ベトナムの歴史的事実と一九五四年のジュネーブ協定は上述のアメリカの前提をくつがえし、したがって、それにもとづくアメリカのあらゆる主張を論破している。多くの誠実なアメリカ人は、こう自問している——もし外国がアメリカの南部諸州を別の分離国家にしようとしたら、われわれアメリカ人はどう思うだろうか、と。

ジョンソン政権はなんとかしてアメリカの干渉と侵略に反対する南ベトナム数百万人民の愛国的闘争を「破壊活動」に仕立てあげようと懸命になっている。アメリカはまた、「北ベトナムの南ベトナムにたいする侵略」というつくり話をひろめ、それを、かれらの政策の出発点にしている。これは、まさに「泥棒の泥棒よばわり」である。数万マイルもかなたから二七万三千人（一九六六年八月二五日現在三〇万五千人）もの軍隊を南ベトナムに送りこみ、独立、民主、平和、中立、民族の再統一をめざして断固としてたたかう人民を虐殺しているのがアメリカ自身である以上、ベトナム人がベトナム人を「侵略」しており、アメリカ帝国主義者は南ベトナムの「自由」の擁護者であるというアメリカの主張は、どんな理屈をつけても正当化することはできない。

ジョンソン政権は、また、SEATO（東南アジア条約機構）およびサイゴンのかいらい政権にたいする「誓約」をもちだす。しかし、SEATOがベトナムとインドシナに直接介入し、東南アジアの

民族解放運動を押しつぶすため、アメリカの手で非合法につくられた侵略的軍事ブロックであることは広く知られている。ゴ・ジン・ジエムからグエン・カオ・キにいたるさまざまなサイゴン政権についていうならば、かれらはアメリカのつくった、たんなる道具にすぎず、したがってアメリカのいう「誓約」は、まったく架空のものである。

以上のすべてのことは、アメリカ帝国主義者が南ベトナムで侵略の罪を犯していること、かれらこそが犯罪の最大の根源であることをはっきりと証明している。アメリカ帝国主義は、南ベトナムにおけるあらゆる憎むべき戦争犯罪、あらゆる反人民的行為の根源である。

全世界に拡げる侵略の魔手

アメリカ政府は、ベトナムで侵略戦争をおこなっているだけでなく、世界の他の多くの場所でもさまざまな形の侵略をおこなっている。

かれらは一九五〇年から五三年にかけて朝鮮で侵略戦争をひきおこした。かれらは、一九五八年地中海に第六艦隊を送り、国連を看板につかかってレバノンに干渉した。一九六〇年、かれらはコンゴに侵入した。かれらは一九六一年キューバに武力侵略をおこない、また一九六五年にはドミニカを侵略した。かれらは、ラオス王国を侵略し、また、裏切者の「クメール・セレイ」(「自由クメール」)を養い、かれらを武装させ、かれらを指揮してカンボジア王国にたいする破壊と挑発をおこなっている。

かれらは、中国領土の一部である台湾が厚かましくも占領し、あらゆる大陸、とくにラテンアメリカで無数のクーデターをひきおこしている、等々。

アメリカ帝国主義者は、みずからくりかえし暴露しているように、かれらの侵略戦争を通じて、世界の他の場所での侵略に役立つ経験をひき出そうとしている。

それゆえ、アメリカ帝国主義者は、ベトナム人民にたいして侵略の罪を犯しているだけでなく、世界の他の国の人民にたいしてもまた、侵略の罪を犯しているのである。

人びとが皇を耕やさず
人びとが花を愛さず
人間が平和なしげみを愛さなくなり
人間であることをやめたら



掃討の中でつかまった子どもと婦人



掃討作戦でとらえられた農民



解放戦線兵士の代りに子どもをとらえて

農民へのむごい拷問





何をしたというのが一水せめの拷問



何のために—ベトナム婦人の胸を
切りさく



何のために—苦悩する農民を平然と眺める悪魔の顔

カイライ軍が同じベトナム農民を拷問



ガス作戦に臨むアメリカ兵

4日間の掃討のあと、いわゆる“アメリカの勝利”について
ソロバンをはじく一虐殺された4人の農民たち



北ベトナムの爆撃で殺された九才の少女を見守る両親と村びと

(66. 6. 29)